

開催日：令和3年12月21日（火）  
開催場所：釧路市観光国際交流センター 研修室1～3

## 釧路湿原自然再生協議会 第25回河川環境再生小委員会 議事要旨

会議の冒頭、事務局から第25回河川環境再生小委員会の発言概要と今後の検討方針（案）について説明を行った。

### ■議事1：茅沼地区旧川復元事業について

（委員）

ハンノキの枯死について、根まで完全に枯死した状態なのか、地上部のみ枯死したものを枯死と判断しているのか。また、根まで枯死したものはどれくらいあったのか数値があれば教えてほしい。

（事務局）

地上部が枯死し、萌芽再生していないものを枯死木としている。詳細なデータについては別途共有させていただきたい。

### ■議事2 ヌマオロ地区旧川復元事業について

（委員）

カワシンジュガイの移動について、P-43に示すような締め切り水位を下げた実施する予定なのか。水位を下げると水が濁り、カワシンジュガイが見つけにくくなる。締め切る前の流れている状態で目視確認により捕獲を行い、そのあとに水位を下げて捕獲するほうが精度が向上すると思われる。河床は砂なのでそこまで濁ることはないかもしれないが、河岸に堆積した泥の部分に生息している事例もあるため、二段構えの方法を検討してほしい。

（事務局）

今回の調査でカワシンジュガイは下流の自然蛇行区間で多く確認されており、事業予定区間では確認されなかった。事業予定区間で確認された場合は下流の自然蛇行区間に移動する方向で対応したいと考えている。

(委員)

カワシンジュガイの繁殖期は6～7月であるため、移動時期についても検討してほしい。

(事務局)

移動は冬季を予定しているため、カワシンジュガイの繁殖に影響はないと考えている。

(委員)

旧川の平面形状を見ると不自然な感じがする。自然河道といえるのか。

(事務局)

河道は農業整備事業で直線化されているが、それ以前は人の手がかかっていない自然の状態となっている。

(委員)

ヤツメウナギ等の幼生が泥の中に相当数いると思われるので、できるだけ移動する努力をしてほしい。

(事務局)

最大限努力をして実施していきたいと考えている。

(委員)

旧川にはエゾホトケドジョウが多くみられるが、移動先は上流の止水域なのか。トゲウオの仲間は直線河道に移動しても問題ないと考えられる。

(事務局)

移動適地については現地で確認しながら実施する予定であるが、移動の際に改めてご助言いただきたい。

(委員)

移動の際にポンプで水を汲み上げて下流に流すと、下流の水量が多くなるのではないかと。澄んだ上水を直線河道に流し、下層の水は下流に移すようにしてはどうか。

(事務局)

旧川の下流側にポンプ排水を行う予定であり、濁水防止のためシルトフェンスで囲って旧川内で処理しながら、茅沼地区を参考に実施する予定である。

(委員)

上流農地からの軽石流出の問題について今回の議事では触れられていないが、どのような結論に至ったのか。

(事務局)

関係する機関で何ができるか、地元の農家の方も含めて検討していると聞いている。状況を確認しながら事業を進めていきたいと考えている。

(委員)

毎年雨が降るたびに軽石や火山灰が流れていく。これが解決しないのであれば、湿原の再生・復元の中で軽石対策を新たに考えていく必要があるのではないか。

(事務局)

旧川復元事業は事業を進めていき、完成時には各機関の対策がそれぞれ機能を発揮し、少しでも下流に土砂が流出しないようにしていきたい。旧川復元事業の目的は、下流側への土砂流入を軽減することであり、軽石が流出したとしても軽減機能は有している。

(委員長)

釧路川とその支流には、おそらくいろいろな問題があり、この軽石の流出も大きな問題である。自然再生事業が、このような問題を浮き彫りにするきっかけになって、解決に向かうということに関与できれば、意義があると思っている。

(委員)

今回の例をこれからの農地開発の在り方、自然と調和できる農業開発や土地改良の参考にしていきたい。

### **■議事3 釧路川支川魚類生息環境の再生事業について**

(委員)

2019～2021 年度にかけてイトウの産卵床が減少しているようであるが、これくらいの差は年変動としてあり得るのか。

(委員) ← 委員で良いのか？要確認

産卵床の減少が年変動によるものなのか、違う要因があるのか、はっきりとはわからない。

(委員)

事業実施箇所や施設の管理者は誰で、管理者とどのような協議を行って検討を進めたのか教えてほしい。

(説明者)

市役所の河川課など、河川や施設の管理者と相談して実施している。また、専門家と話をしながら河川が壊れないように実施している。

(委員)

魚道設計者に設計図作成や計算を行ってもらい、それをもとに開発建設部の公物管理課、市の河川管理者と協議した。

(委員長)

当該箇所の所有者は国や管理は市であり、市の河川担当者と協議し、国にも認可された上で実施している。

(委員)

この取組みは公益財団法人リバーフロント研究所が中心に日本全国で行っている、日本河川・流域再生ネットワークというものがあり、そこで小さな自然再生の取り組みを紹介している。今回のこの釧路の事業についても、構造計算書など場所の特定に繋がらない情報は全て公開しているので、今後、他地域でも活動される方は参考にいただければと思う。

(委員長)

具体的な場所がわからないとなかなか理解できないという意見がある一方、場所が特定されることで絶滅に繋がる可能性もあるため、場所に関する情報を出さないように慎重に行っているところである。あまりオープンにしたいくない面はあるが、委員の理解も得たいため、来年度には委員会メンバーの希望者に現地観察会を企画している。

以 上